本社テーマ

観光立国の実現は、地方（地域）から

since1950

今週の紙面

２面

日中韓、交流4000万人目指す

日中韓観光大臣会合が神戸で５年ぶりに開催。３国間の交流人口について、2030年までに4000万人を達成するべく相互に努力することに合意した。

３面

ＪＲ西、アプリに新機能

ＪＲ西日本は、同社のアプリ「ＷＥＳＴＥＲ」をアップデートした。アプリ内のネット予約の確認画面に従来の遅延情報に加え、乗り継ぎ情報などを表示する機能を新たに追加。

９面

旅館で書店の開業支援

大日本印刷は、旅館などの事業者における書店開業を支援するサービスをこのほど始めた。第１弾として北海道の「定山渓第一寶亭留」で開業を支援。

10面

高山のエコツー構想認定

高山市がエコツーリズム推進法に基づき申請していた乗鞍岳エコツーリズム推進全体構想が国から認定を受けた。全体構想の認定数は全国で28件に。

11面

和倉で３旅館が営業再開

「北陸観光ＰＲ会議」が東京都内で開催。石川県七尾市のＤＭＯは、能登半島地震で被災した和倉温泉３旅館の営業再開など現況を説明した。

客室備品・必需品特集（８面）

ツーリズムEXPOジャパン2024特集（第２部）

週刊 観光経済新聞

宿泊・旅行業・運輸・自治体（観光全般）

日本専門新聞協会加盟紙
国土交通省交通運輸記者会所属
発行所
東京都台東区池之端２－７－17
井門池之端ビル　〒110-0008
株式会社観光経済新聞社
電話　03(3827)9800(代)
FAX　03(3827)9730

北海道支局
札幌市中央区北６条西27丁目1-3-705　〒064-0826
電話　011(624)5030
FAX　011(621)2530

関西支局
大阪市北区梅田1丁目11番4－1000号 大阪駅前第4ビル　〒530-0001
電話　06(7636)6377
FAX　06(6131)6199

九州支局
福岡市早良区室見1－12－1－508　〒814-0015
電話　070(6666)6350
FAX　092(836)7992

購読料年間 19,800円(税・送料込)（税抜18,000円）

振替口座　00140-2-86888番
e-mail info@kankokeizai.com

草津トップも上位混戦

本社主催 第38回「にっぽんの温泉100選」中間集計

2位下呂、3位別府八湯

10月末投票締め切り

観光経済新聞社は19日、主催する第38回「にっぽんの温泉100選」の中間集計結果を発表した。中間段階のトップは前回まで21年連続1位の草津（群馬県）。2位に下呂（岐阜県）、3位に別府八湯（大分県）が入った。ただ得票は僅差で、上位は混戦模様。今後の投票いかんで順位が大きく入れ替わる可能性がある。投票は10月末まで受け付け、最終順位は本紙の年内最終号（12月16日付）で発表する。

にっぽんの温泉100選は、旅行会社、OTA（オンライン・トラベル・エージェント）、航空・鉄道・バスなど運輸機関の社員ら「旅行のプロ」による国内の温泉地の人気投票。1枚の投票はがきに自身が薦める温泉地5カ所を記入してもらい、本社内の事務局で集計。観光関係8団体などで構成する「にっぽんの温泉100選実行委員会」の承認を得て、上位100位までを公表している。投票期間は7月から10月末までの4カ月間。はがきのほか、本社のホームページ（https://www.kankokeizai.com/）から投票を受け付けている。

温泉100選に加え、温泉地の旅館・ホテルの人気投票「人気温泉旅館ホテル250選」も同時に実施。入選施設に認定証、通算5回以上入選の施設は「5つ星の宿」と称して特製の認定証を授与している。

一連の事業には観光関係8団体と、観光庁、環境省が後援している（予定を含む）。

中間段階のトップは2003年度から昨年度まで21年連続1位の草津が入った。質の高い温泉に加えて新たな街づくりを絶えず進める先進性が高く評価されるなど、今回も多くの得票を集めている。

2位は前回も2位の下呂、3位は前回4位の別府八湯と、なじみの顔触れが並ぶ。

トップ10の中では前回11位の黒川（熊本県）が9位にランクイン。前回10位の由布院（大分県）が13位に順位を下げている。

前回から大きく順位を上げているのが前回の31位から19位のあわら（福井県）、33位から21位の昼神（長野県）、36位から22位の山代（石川県）、44位から24位の四万（群馬県）、46位から31位の三朝（鳥取県）、67位から37位の母畑（福島県）など。

あわら、山代は3月16日に延伸開業した北陸新幹線の沿線にあり、その開業効果も表れているものとみられる。1月1日の能登半島地震で大きな被害を受けた和倉（石川県）が前回の12位から11位に順位を上げているのも注目される。

前回の圏外から新たに100選にランクインしているのは、79位の西山（山梨県）、82位の長島（三重県）、83位の温泉津（島根県）など13温泉地。

投票締め切りの10月末まで残り1カ月余り。今後の投票により、順位が大きく動く可能性がある。

【森田淳】

第38回「にっぽんの温泉100選」中間順位

順位	昨年	温泉地	所在地
1	1	草津	群馬
2	2	下呂	岐阜
3	4	別府八湯	大分
4	3	道後	愛媛
5	5	有馬	兵庫
6	9	城崎	兵庫
7	6	登別	北海道
8	7	指宿	鹿児島
9	11	黒川	熊本
10	8	箱根	神奈川
11	12	和倉	石川
12	16	伊香保	群馬
13	10	由布院	大分
14	18	玉造	島根
15	15	奥飛騨温泉郷	岐阜
16	14	銀山	山形
17	23	鬼怒川・川治	栃木
18	13	熱海	静岡
19	31	あわら	福井
20	21	月岡	新潟
21	33	昼神	長野
22	36	山代	石川
23	27	秋保	宮城
24	44	四万	群馬
25	22	十勝川	北海道
26	35	霧島	鹿児島
27	20	乳頭温泉郷	秋田
28	19	万座	群馬
29	25	嬉野	佐賀
30	32	白骨	長野
31	46	三朝	鳥取
32	37	雲仙	長崎
33	51	酸ヶ湯	青森
34	42	みなかみ18湯	群馬
35	28	鳴子	宮城
36	17	蔵王	山形
37	67	母畑	福島
38	43	湯田中渋温泉郷	長野
39	26	白浜	和歌山
40	29	長門湯本	山口
41	61	宇奈月	富山
42	39	長良川	岐阜
43	24	湯の川	北海道
44	49	修善寺	静岡
45	41	山中	石川
46	92	阿蘇温泉郷	熊本
47	70	川湯	北海道
48	80	山鹿・平山	熊本
49	64	稲取	静岡
50	34	定山渓	北海道
51	40	花巻温泉郷	岩手
52	63	湯河原	神奈川
53	30	層雲峡	北海道
54	47	上諏訪	長野
55	55	伊東	静岡
56	70	皆生	鳥取
57	48	阿寒湖	北海道
58	52	芦ノ牧	福島
59	58	那須	栃木
60	66	石和	山梨
61	53	飛騨高山	岐阜
62	50	観音	静岡
63	72	湯村	兵庫
64	69	こんぴら	香川
65	94	人吉	熊本
66	67	玉川	秋田
67	57	つなぎ	岩手
68	74	東山	福島
69	59	湯西川	栃木
70	90	おごと	滋賀
71	45	洞爺湖	北海道
72	87	あつみ	山形
73	82	越後湯沢	新潟
74	60	ウトロ	北海道
75	77	かみのやま	山形
76	86	日光湯元	栃木
77	75	鳥羽温泉郷	三重
78	64	高湯	福島
79	—	西山	山梨
80	55	野沢	長野
81	87	松之山	新潟
82	—	長島	三重
83	—	温泉津	島根
84	100	浅虫	青森
85	—	遠刈田	宮城
86	84	塩原	栃木
87	—	鴨川	千葉
88	78	河口湖	山梨
89	—	美ヶ原	長野
90	—	杖立	熊本
91	97	扉	長野
92	92	瀬波	新潟
93	—	勝浦	千葉
94	82	洲本	兵庫
95	79	別所	長野
96	—	黄金崎不老ふ死	青森
97	—	支笏湖	北海道
98	—	磯部	群馬
99	—	富士山	山梨
100	—	南木曽	長野

観国之光

クニノ ヒカリ ヲ ミル　■475■

――観光業界の今を読み説く

観光の意識変わるか？

訪日客に寄付募る

新型コロナ禍の影響をもろに受けたインバウンド市場だが、収束とともに様相は一変。今年上半期（1～6月）は前年同期比6・9%増の1777万7200人となり、過去最高だった19年同期（1663万3614人）を100万人以上上回った。

23年の訪日客の旅行消費額は5兆2923億円で、こちらも過去最高。消費の目的別では宿泊費が最も高く、買い物よりも体験を重視する傾向が強まっているという。

先ごろ、神戸市で開かれた日中韓の観光担当閣僚会合では、行き来する旅行者などの数を30年までに、コロナ禍前の水準を1千万人上回る4千万人に増やす目標に向け連携を強化することを確認した。

インバウンドは国際情勢や疫病などに左右されやすく、過度の期待は禁物だが、今はビジネスチャンスといえる。訪日客が増え、お金を使ってくれれば日本経済も潤う。どう使ってもらうかを真剣に考えたい。

そうした中、訪日客から寄付金を募り、返礼品を贈る取り組みが始まるというニュースを知った。初の取り組みだ。

電子ギフトを手掛けるギフティ（東京）などが開発した「Donate&Go（ドネイト・アンド・ゴー）」という仕組みを利用して寄付を募る。実施自治体は京都市で、11日からサービスを開始した。また、今回の仕組みを全国に広げるため、同社や大阪ガス、日本航空などが参加し「コンソーシアム」も設立された。

旅行などで京都市内を訪れた外国人客が、スマートフォンなどから専用サイトを通じてクレジットカードで寄付（千円から100万円）を行うと、返礼品として市内の飲食店や観光施設などで使える電子ギフト券（寄付額の半額分）をその場で受け取ることができる。

使える店舗数は同日現在で約380。今後、増やしていく方針だ。市は寄付額の半額を受け取り、伝統的景観の保全や伝統産業を支援する事業などに充てるという。

訪日客でにぎわう京都。新たな試みは受け入れられるか（写真はイメージ）

市は「京都への滞在を通じて京都人の生活文化やライフスタイルを楽しみながらまちを支えていただき、単発の名所訪問型観光から、中長期的に京都文化の継承と発展を支えていただく関係人口への深化へとつなげていく、画期的な仕組み」と話す。

コンソーシアムには北海道の倶知安観光協会も参加しており、早ければ年内にもニセコエリアで同様のサービスが開始される予定だ。

訪日客にただ単に観光で来て消費してもらうのではなく、地域の文化の保全にも協力してもらうというこの試み。今後広がっていけば外国人と観光地（地域住民）との関係も変化するかもしれない。

【内井高弘】

授与式は来年1月15日

人気温泉旅館ホテル250選

本社

観光経済新聞社は来年1月15日、東京の浅草ビューホテルで2024年度「人気温泉旅館ホテル250選認定証授与式」を開催する。250選の入選施設に認定証を授与。東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター客員教授の松尾一郎氏が特別講演を行う。

250選はにっぽんの温泉100選と同時に行っている旅行会社社員らによる温泉旅館・ホテルの人気投票。得票の多かった上位250軒を順位を付けずに公表。授与式では入選施設に認定証、通算5回以上入選の施設を「5つ星の宿PLATINUM（プラチナ）」に認定している。また前回から25回入選の5つ星施設を「5つ星の宿」として特製の認定証を授与している。

前回の授与式（1月19日）

お知らせ

「観光経済新聞」の次号の発行は10月7日付です。9月30日付は休刊です。

観光指針

宿泊業界を悩ませる人手不足。現状や対策を経営者数人に聞き、既に紙面掲載したが、その後も何人かにお答えいただいており、この場を借りて紹介する▼「慢性的な人手不足はあるかと思うが、弊社は今のところ安定している。応募をしていただくために待遇の改善強化を進めている。賃金アップ、できる範囲内のDX化、知名度アップ、休館日の導入、福利厚生のさらなる充実など。待遇改善を今度さらに加速していかなくてはと準備中だ」▼「弊社としても感覚的には人手不足感は昨年や一昨年よりも緩和された感はある。ただ、まだ充足しているとはいえない。今年に入ってから中途での採用を多くできたのだが、待遇面の見直しと採用サイトの整備の二つの打ち手が効果があったと考える。行政には外国人採用の際のビザの条件面を旅館業で働きやすい内容にしていただく、もしくはビザの取得チャンスを増やすなどしてもらえるとありがたい」▼「コロナ禍で若年スタッフの離職が増え、週末などお客さまの多い日が特に人手不足。夏休みなど長期の繁忙期は2週間から1カ月の派遣スタッフ、週末や短期の繁忙期は短時間アルバイトを併用して何とか対応している。食事処もレイアウトを工夫し、1カ所で食事を提供できるようにしている」▼以上、読者の皆さまの参考になれば幸いだ。【M・A】

観光経済新聞
kankokeizai.com

MISAWA

ビジネスホテルも
ミサワホームの
デザインリフォーム

ミサワホームのデザイン力で、
居心地の良い「選ばれる宿空間」をご提案します

お客さまの記憶に残る宿の実現へ
Reform Hotel & 旅館
リフォーム実例やノウハウなど、
無料カタログ請求はこちらから

旅館・ホテルの新装、増改築の実例はホームページからご覧いただけます。
ミサワお宿 検索
https://www.misawa.co.jp/reform/yado/

お電話でのお問い合わせもお気軽にどうぞ。
フリーコール 0120-398-330
営業時間 /9:00 ～ 18:00/ 土・日・祝定休

住まいを通じて生涯のおつきあい
新しい暮らしをデザインします ミサワホーム
価値と快適をデザインします ミサワリフォーム